

海外実務訓練の大学基金様・寄付者様からのご支援に対するお礼状

長岡技術科学大学 電気電子情報工学分野 B4 ■■■■■

2026年2月17日

まず初めに、今回海外実務訓練に関して、寄付者様から多大なるご支援を賜りましたこととお礼申し上げます。

私はこの度、オーストラリアのシドニーに位置する Australia Nuclear Science Technology and Organisation (ANSTO) という研究所及び企業に、海外実務訓練として4か月間お世話になりました。今回の実務訓練が私にとって初めての海外経験であり、かつ4か月という長い期間を過ごさせて頂きましたことは、感謝してもしきれない思いです。主に ANSTO では、研究業務の実務を通して、実際の業務の流れや、安全対策について深く学ぶ機会を頂き、これら4か月間で培ったものは、必ず自らの成長の糧になると確信しております。実際行っていた研究業務として、私は原子力施設、主に発電所などでの利用が期待される自己治癒材料(Self-healing Material) というものを、3D プリンターに応用させようという試みの下研究を行ってまいりました。こちらの研究は ANSTO とオーストラリアの UOW (University Of Wollongong) の間の共同研究です。今回私は ANSTO, UOW, そして本学との共同研究の実施者の一人として研究に参加させていただきました。

研究だけでなく、プライベートでも非常に多くのことを体験、経験させて頂きました。オーストラリアという異国の地で、日本とは国土、気候、国民構成や政治思想、人々の考え方までもが大きく異なり、初めて見る日本以外の景色として、これほどまでに価値のある機会はないと思っております。

滞在期間中はオーストラリアならではの広さと、様々なものが混在、共存しているという点から、それらを知るために多くの博物館や Bush(森や山、雑木林)などを訪れ、生でオーストラリアの歴史や自然を見る機会が多くありました。週末の土・日曜日は、体調不良などによるものを含めて、4か月間で2日ほどしか家で過ごす日が無かった程、大変充実した日々を送らせて頂きました。というのも、シドニー市内だけでも多くの観光スポットが存在し、どの場所も新しい風景が広がっていると考えると、足を運ばずにはいられませんでした。また、特に感動したのは、オーストラリア中央に位置するエアーズロックに訪れた時です。あたり一面砂漠という過酷な地の一角に、300mを超える巨岩が強烈な存在感を放っている姿を見た時、自然の偉大さと奇跡を目の当たりにすることができました。私は現地で、先住民族のアボリジニについて、直接民族の歴史や道具の使い方などを教えていただき、シドニーにある博物館などで得た知識を元に、実際に目にしたアボリジニに関する理解を深めるということことができました。

総じて、オーストラリアでの生活では、公私共に大きな学びを得る機会をいただき、またそれらの知恵・知識は修士課程に進学した後でも必ず役に立つと思っております。今回の奨学金制度が無ければ、金銭的余裕という観点から、心の負担が増えたり、経験できることが少なくなってしまうと、多くの不自由が足かせとなってしまう可能性がありました。今回の皆様方からのご支援を賜り、無事実務訓練を修了させて頂きましたことを、改めて深くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。